

研究開発プログラム 評価書（外部評価）

平成 29 年 3 月 22 日（水）  
 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会  
 委員長 深尾 精一

持続可能プログラム		年度評価
評価項目ごとの評定	評定	評価委員会コメント（評定理由）
①成果・取組が国の方針や社会のニーズに適合しているか【妥当性の観点】	a	地球温暖化に伴う気候変動やエネルギー問題によって経済・社会等に重大な影響が及ばないよう低炭素で持続可能な住宅・建築・都市を構築し、また人口減少・少子高齢化に伴う都市・住宅上の管理上の課題や建設産業における労働力不足に対応するという社会的要請にも適切に対応できる課題設定となっており、成果・取組が国の方針や社会のニーズに適合している。
②成果・取組が社会的価値の創出に貢献するものであるか【社会的・経済的観点】	a	住宅・建築物の省エネ規制強化に向けた研究は、我が国のエネルギー需給構造の改善や国際競争力の強化に資する。また、木造による中高層建築物の実現に向けた構造、防火、材料に関する研究は、今後の木質系材料の利用拡大への貢献が期待できるが、より一層の中高層木造建築物の普及の観点からは、今後はコストを踏まえた設計・施工に関する研究にも取り組むよう検討していただきたい。 人口減少・少子高齢化に伴う研究については、近年、建築物の用途変更対応等ストック対策への社会ニーズが高まっているが、これらは様々な分野の研究機関において実施されるべきテーマであることも踏まえつつ、建築研究所に適した研究課題として取り組むよう検討していただきたい。
③成果・取組が期待された時期に適切な形で創出・実施される計画となっているか【時間的観点】	a	研究開発プログラム1年目であるが、個別研究27課題の内部評価で「目標を達成できた(a)」が25課題であった。残る2課題は「目標を概ね達成できた(b)」であったが、いずれも目標達成に向けて次年度以降の研究計画で十分調整可能である。また、外部評価分科会では、指定課題6課題全て「目標を達成できた(A)」との評価を取得している。目標に対して順調に進捗している。
④国内外の大学、民間事業者、研究開発機関との連携・協力の取り組みが適切かつ十分であるか	a	個別研究課題の内容に応じて、国内外の大学や民間事業者、研究開発機関と適切な役割分担のもと、共同研究を17件、延べ24者の参加を得て進めている。また、競争的資金の獲得件数は12件であった。それぞれの役割を果たしつつ効率的に進めていくための連携・協力の取り組みは適切かつ妥当な水準である。
⑤政策の企画立案や技術基準策定等に対する技術的支援が適切かつ十分に行われているか	a	木造建築物の中高層化、CLT等に関する国土交通省等の委員会に委員として参画し、研究課題の成果等の基準・指針等への反映に向けた活動を行っている。国内外における技術指導件数は175件に達している。 政策の企画立案や技術基準策定等に対する技術的支援が適切かつ十分に行われており、蓄積された成果等を技術支援等に活用できている。 なお、木造建築物の普及に資する活動としては、CLT構造の技術的基準の原案や木造耐火建築物の設計マニュアル等に対して、研究成果の反映等がなされているが、CLT構造の居住環境の改善等の分野における技術指導等にも積極的に取り組むよう検討していただきたい。
⑥研究成果を適切な形でとりまとめ、関係学会での発表等による成果の普及を適切に行うとともに、社会から理解を得ていく取組を積極的に推進しているか	a	研究成果については、日本建築学会等の学術論文としての投稿等を通じて積極的に発表している。論文の発表数は、89件であり、そのうち、査読付き論文数は12件である。また、2月には「都市・住宅・建築物の持続可能性に関する研究」のシンポジウムを行うなど、4件の発表会・国際会議の開催を行っており、3月には建築研究所講演会を実施した。研究成果の刊行物を6冊発行し、ホームページにおいて公開している。さらに、所内のCLT実験棟への視察では、政府関係者をはじめ、研究者、自治体関係者、設計実務者等に、最新の研究成果を説明・発信しており、その延べ人数は2,500人を超え、CLTの認知や普及促進に広く役立っている。 このように、様々な機会を通じて、広く社会に成果公開を行うとともに、社会から理解を得ていく取組も実施し、蓄積した成果等の普及を積極的に推進している。
全体評定	※事務局が記入 <b>A</b>	

- ※ 1 評価区分（年度評価） a：実施状況が適切であり、引き続き計画の内容に沿って実施すべきである。  
 b：内容を一部修正の上実施すべきである。  
 c：大幅な見直しを要する。
- ※ 2 評価項目ごとに、a：3点、b：2点、c：1点とし、算術平均の結果に最も近い数字に対応するABC（A：3点、B：2点、C：1点）を全体評定とする。
- ※ 3 ①、②、③は評価点を2倍に加重した上で、算術平均を算出する。